

母と子の医療を世界に届ける会



IGPC

特定非営利活動法人

母と子の医療を世界に届ける会

Initiative for Global Perinatal Care

Mission

世界のすべてのお母さん
と赤ちゃんに周産期医療
を届ける

Vision

JGPCが目指すもの—

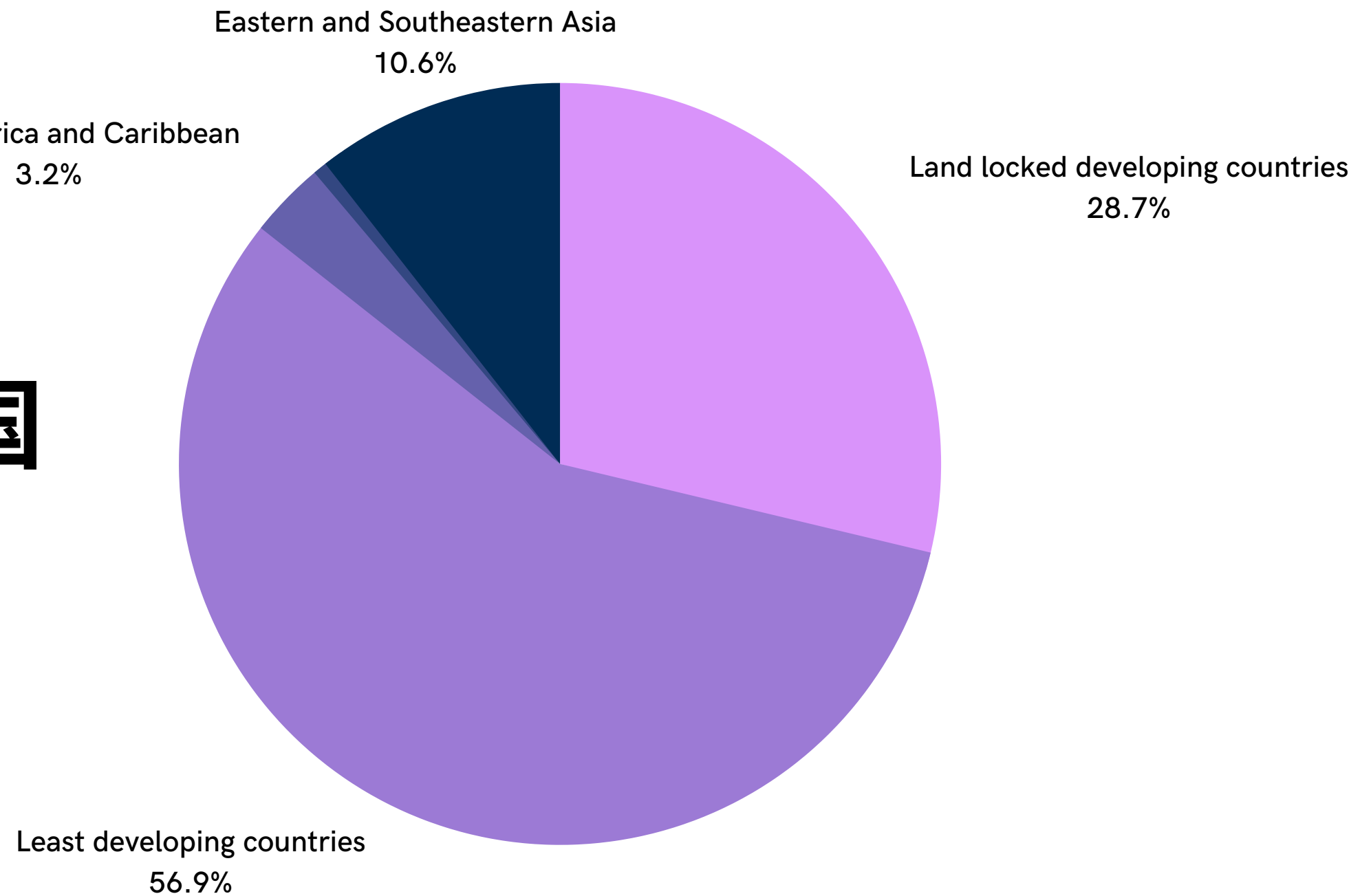
それは、お金のある人も、お金のない人も、日本にいても、シエラレオネにいても、
生まれてきた赤ちゃんを見ながら、
「おめでとう、よかったね」と言い合える、そんな繋がりを世界中で築いていくこと。

無事に生まれることが奇跡みたいな

この国で、生まれてきたことを日本にいる誰かと喜びあえる世界。
国を超えて、海を越えて、世界中で「おめでとうと言合える世界」をつくる事が我々の最終的なゴールなのです。

世界の母体死亡の 約90%は発展途上国 で起きています。

UNICEF 2019 Every New Born Baby より



世界一安全な日本のお産。

現在日本に住む私たちにとって出産とは、新しい命と出会う、人生で最も幸せに包まれた瞬間です。しかしそれは、高度な周産期医療によりお母さんたちが安全に分娩でき、赤ちゃんがさまざまな危険から守られているためである、という事実を知っている人は少ないと思います。

周産期とは、妊娠22週から生後7日までを意味する言葉です。この時期の女性と赤ちゃんに対する医療は近年急速に発展しており、Neonatal Intensive Care Unit (NICU) に代表されるように、高度な機械や訓練されたスタッフなどの豊富な医療資源に支えられています。

しかし、そのような医療のない開発途上国では、お産は常に死と隣り合わせです。生まれてくる赤ちゃんも、生まれた場所が我々の住む国であれば、なんの障害もなく育っていけるような子達が、数多く命を落としていきます。私たちが当然のように享受している周産期医療の恩恵を受けている人たちは、世界でほんの一握りでしかありません。

日本の母体死亡率は3.3人／10万出生

シエラレオネ共和国の母体死亡率 1120人／10万



IGPCのアプローチ

- 臨床活動
- 医療機器開発
- 臨床研究

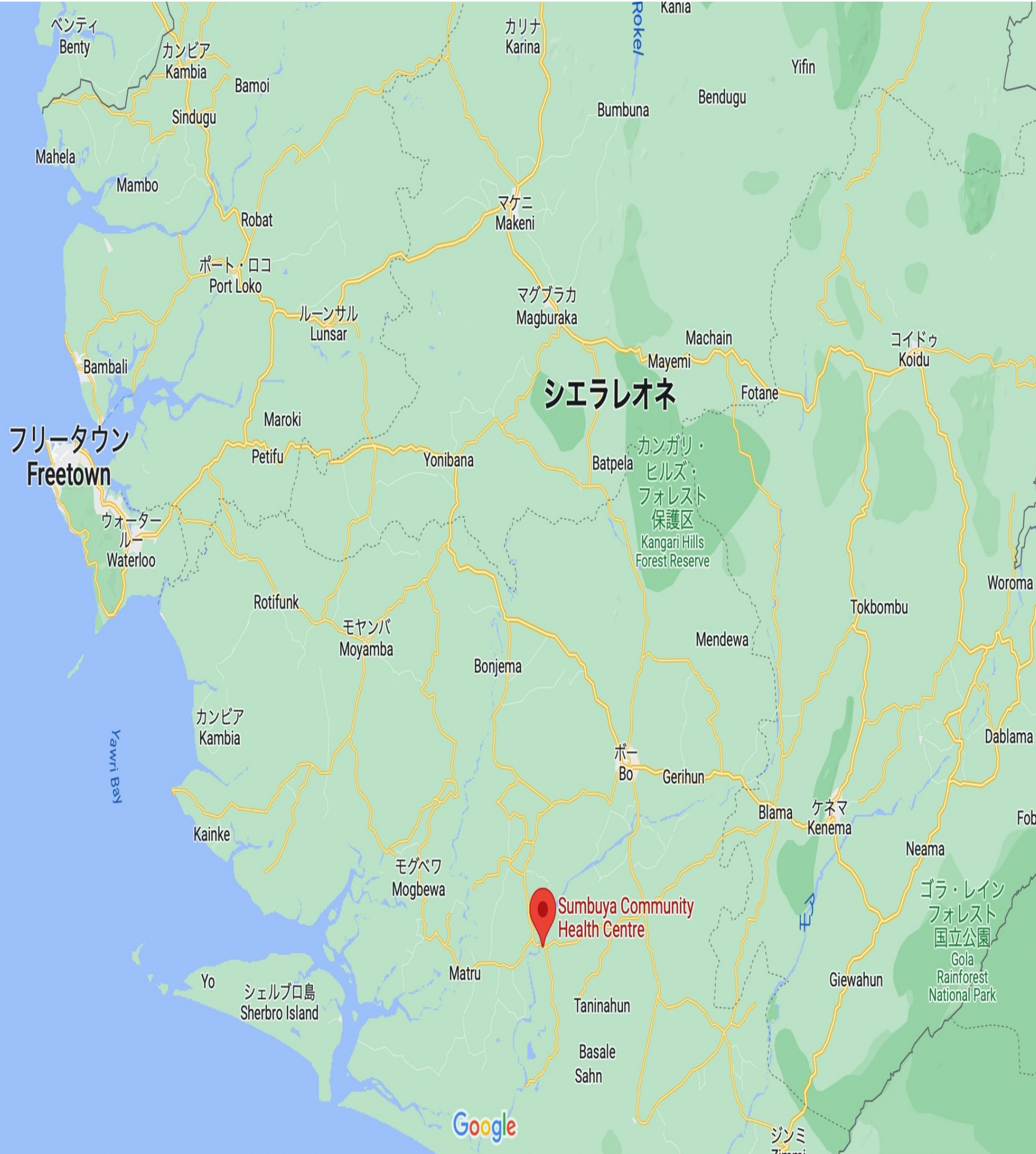
IGPC

for every mother and newborn



臨床活動

母体死亡をゼロにする



首都フリータウンから車で5時間走ったところには、我々の活動拠点があります。

ボー県、スンブヤ町。

人口3万人弱の田舎町です。

高い母体死亡率と 3つの遅れ



受診の遅れ (SEEK CARE)

医療の助けを求めようと”決心する”ことが遅れる。

危険な症状を認識しない：患者・家族・医療者

経済的困窮：医療費に対する懸念、交通手段の制限

文化的背景：伝統医療



医療機関にくるのが遅い (REACH HELP)

医療機関に”辿り着く”までが遅れる。

医療機関までの距離

交通手段の制限

道路インフラ



治療開始が遅い (RECEIVE APPROPRIATE CARE)

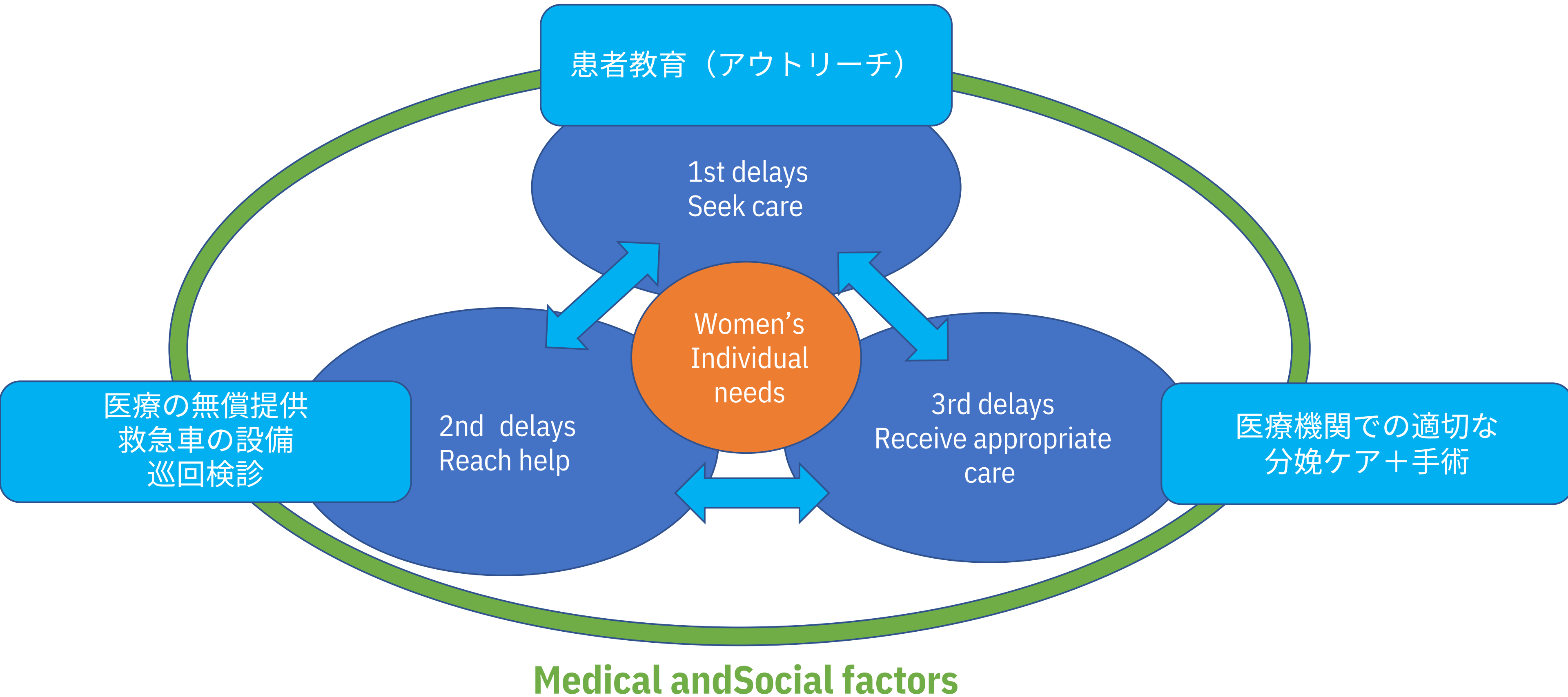
医療機関での”適切な”治療介入の遅れ。

医療者及び物資の制限

粗末な患者体験：長時間の待ち時間、disrespectfulな対応

医療スタッフのスキル不足

IGPCのアプローチ



STL Perinatal Medical Center

母体死亡をゼロにする



分娩室、手術室、新生児集中治療室を備えた施設

従来は、従業員のための施設であった医療施設を、一般の人々にも開放。特に、ハイリスク妊娠や小児救急医療を充実させ、周産期センターとして地域に根ざした活動を開始している。







村へのアウトリーチ活動。第一の遅れに対応するため、村へ出かけて行って、ハイリスク妊娠を特定し、どんな症状があったらすぐ受診すべきか、健康教育を行います。

医療機器開発

新生児死亡を削減する

途上国における新生児死亡の原因 で最も多いのは早産



32～34週くらいの中・
後期早産児が最多



保温、呼吸、栄養さえしっ
かりサポートできれば生存
可能



安価でどこでも使える保育
器とCPAPの開発



簡単な素材で、電力を使わず赤ちゃんを保温

日本のように常に電力が確保されているわけではない途上国では、電力にたよらない機器の開発が必要です。

この保育器は、温水を利用して保育器内の温度を保ちます。



途上国の多くでは、酸素生成器を使用してCPAPに必要なフローを生成します。

そのため、不必要に高濃度酸素を投与しなくてはいかmせん。

IGPCとアトムメディカルが共同で開発しているCPAPは、小型で軽量、持ち運びができるサイズです。

電気の供給が不十分なところでも、バッテリー駆動で8時間ほどもちます。

途上国 + 周産期 + DX

妊婦検診の電子化。

JICAの母子手帳の電子化とは考え方が根本的に違います。

我々が目指すのは、妊婦検診を電子化することにより、妊婦検診のための受診そのものを必要なくすることです。

Community
outreach





スマートフォン超音波 診断装置

早産児対策で一番問題となるのが、在胎週数です。途上国では、予定日を設定することが困難です。理由は、最終月経を誰も覚えていないから。超音波装置の普及率も極端に低いため、予定日確定は困難を極めます。

IGPCはスマートフォンで超音波診断ができるデバイスを利用し、アウトリーチ活動で予定日確定や、多胎妊娠の発見に役立てています。

SPAQ

phone & web App

Navigator

Telecommunication

EMR



Portable Medical equipem

Ultrason

Urine analyser

Fetal mon

Blood analyser

power source

Solar panels & Battery

SOIK IGPC Health and Tec

Nom: *Abubakar Rahman*

Contact: 71-222-3333

Médical numérique
Système de traitement
Démonstration déc. 2020

SPAQを利用した妊婦健診データ管理

また、妊婦健診で珪素s区する血圧、体重などをデジタルで管理し、データを蓄積しています。SPAQアプリひとつで、超音波診断のデータから妊婦健診のデータまですべて一元管理できるようになります。

低コスト保育器、CPAPは日本の周産期医療機器メーカーの草分けであるアトムメディカルと、

DX周産期管理アプリは、コンゴ民主共和国のスタートアップ企業SOIKと共同開発しています。

そして、オランダ医療機器メーカー（DFLT）と胎児超音波AIを組み込んだアプリ開発にも取り組む予定です。

臨床研究活動

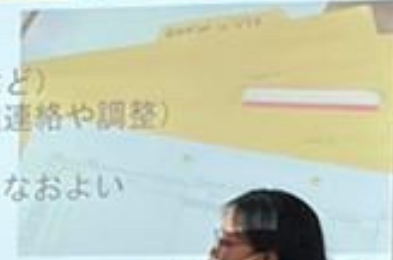


- ・臨床経験：3年程度
- ・語学力（英語）：日常会話程度
- ・専門性：活動内容や状況に合わせ募集



～そのほかIGPCが求める能力～

- ・一般事務（各種書類作成、問い合わせ対応など）
- ・業務調整や資材調達（活動地と日本との各種連絡や調整）
- ・広報（SNS更新、活動報告媒体作成など）
- ・英語での文書作成、連絡調整業務ができるとなおよい



国立研究開発法人日本
医療研究開発機構
(AMED)

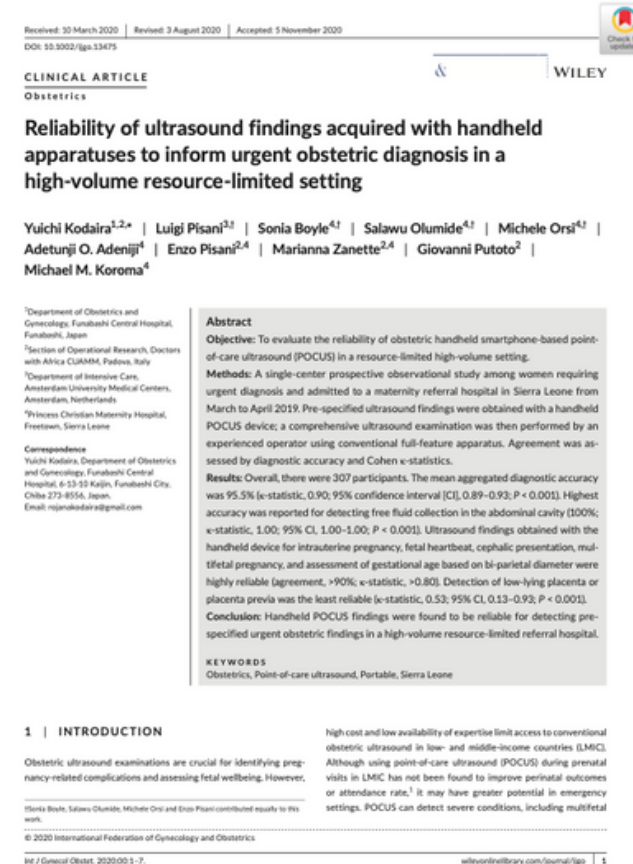
「地球規模課題解決の
ための研究」で採択



ボー県立病院 研究のカウンターパートと

その他にもホンジュラス、シエラレオネで研究活動を展開

スマートフォン超音波診断装置の信頼性についての研究



ホンジュラスにおける新生児死亡原因



研究トピックはつきない

妊娠と鎌状赤血球

早産児とカンガルーケア

栄養と貧血

EXCLUSIVE BREAST
FEEDING とマラリア感染

途上国におけるGBS

GDMの発症頻度



医療をもってしてもいつも助けられるわけではありません。むしろ、助けられない赤ちゃんのほうが多いでしょう。

それでも、アフリカの大地で、命と真摯に向き合いたいと思ったら、お気軽にご連絡ください。

